

基幹型共同研究プロジェクト

「コミュニケーションのための言語と教育の研究」

日本語学習者の読解過程の解明に向けて

の だ ひ さ し
野田 尚史

《研究の概要》

【研究の目的】

「聞く」「話す」「読む」「書く」というコミュニケーション能力を高めることを重視した日本語教育を行えるようにするために、日本語母語話者と日本語非母語話者の日本語運用の実態を解明することを中心的な研究の目的にする。

【研究の特色】

これまでの日本語教育のための研究は、「話す」「書く」という産出能力についてのものが中心だった。この共同研究プロジェクトでは、これまで研究が手薄だった「聞く」「読む」という理解能力についての研究に特に重点を置いて進めている。

【研究の学術的・社会的意義】

まだほとんど解明されていない日本語学習者の言語理解過程を詳細に明らかにし、「話す」「書く」ための教材に比べ遅れている「聞く」「読む」ための教材開発に有益な情報を与えるという意義がある。

共同研究者 13名

《主要な成果物》

【著書】

野田尚史(編), 張麟声(訳)『交際型日語教学语法研究』(コミュニケーションのための日本語教育文法), 中国外語教学与研究出版社(北京), 2014(予定).

村岡貴子・因京子・仁科喜久子『論文作成のための文章力向上プログラム—アカデミック・ライティングの核心をつかむ—』大阪大学出版会, 2013.
三宅和子・野田尚史・生越直樹(編)『「配慮」はどのように示されるか』(シリーズ社会言語科学1), pp. 131-152, ひつじ書房, 2012.

野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版, 2012.

【論文】

野田尚史「日本語非母語話者の感動詞の不自然な運用」, 友定賢治(編)『感動詞の言語学』ひつじ書房, 2014(予定).

中俣尚己「中国語話者による「も」構文の習得—「AもBもP」「AもP, BもP」構文に注目して—」『日本語教育』156号, 2013.

【その他の著作物】

野田尚史「「オーダーメイドの文法」をめざして」『日本語学』第32巻第7号(特集:日本語教育文法の今), pp. 62-71, 明治書院, 2013.

《特色ある活動》

【フォーラム】

野田尚史・桑原陽子・フォード丹羽順子・藤原未雪「日本語学習者の読解過程—教師が考えているのとは違う学習者の実態—」第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム AJE フォーラム(スペイン, マドリード・コンプルテンセ大学), 2013.

【講演】

野田尚史「コミュニケーションのための日本語教育」第5回スペイン日本語教師会総会, 基調講演(スペイン, 国際交流基金マドリード日本文化センター), 2014(予定).

野田尚史「日本語教育における文法のあるべき姿」関西言語学会第38回大会, シンポジウム, 同志社大学, 2013.

【研修会等】

野田尚史「コミュニケーションのための日本語教育文法」第16回ヤマガタヤポニカ日本語教師研修講座, 山形市男女共同参画センター, 2014(予定).

野田尚史「実践的な日本語読解教材の作成—グルメサイトのクチコミを例にして—」フランス日本語教師会特別勉強会(日本語学研究会共催)(パリディドロ第7大学), 2013.

《何が分かったか、何が出来たか》

【日本語学習者の読解過程の調査方法】

日本語学習者の読解過程を解明するために、(1)から(3)のような手順で調査を進めている。

- (1) 日本語学習者に日本語の文章を読んでもらい、読みながら理解した意味やわからなかった点などを学習者の母語で話してもらおう。
- (2) どのように理解したかを確認するための質問を学習者に学習者の母語で行い、答えてもらおう。
- (3) 通訳の発話も含め、すべての発話を録音し、辞書の使用などについても記録する。それを日本語に翻訳して、読解過程のデータとする。

調査に使う文章は、やさしく書き換えられた日本語教科書の文章などではなく、インターネット上の文章、新聞、学術論文など、^{なま}生のものを使う。

【初級レベルの日本語学習者の読解過程】

日本語学習前に漢字の知識を持っていなかったさまざまな母語の初級レベルの日本語学習者を中心に読解過程の調査を行った。インターネットのグルメサイトに載っているレストランのクチコミを読んでもらった結果、たとえば(4)のようなことが明らかになった。

- (4) 初級レベルの日本語学習者は、日本語についての少ない知識を補うために、さまざまなストラテジーを使って日本語を読んでいる。そのストラテジーによって正しい解釈をすることもあるが、誤った解釈をすることもある。
- (5) では、「ですが…」や「ませんでした」から「ここには悪いことが書かれているはずだ」と推測する学習者がいる。これは成功例である。
- (5) サラダや前菜のブッフェですが、まあ普通といった所。
ピザやパスタのクオリーティーとつり合っていない気がするのですが…
イタリア料理のレシピはあるけど、味にそこまでの拘りを感じませんでした。
- (6) では、「「けど」の前はよいことを表し、「けど」の後には悪いことを表しているはずだ」と推測する学習者がいる。これは失敗例である。
- (6) 最近行ったビュッフェは、案外品数が少なく、全種類食べられることが多かったんだけど、ここは、絶対無理。

【中級レベルの日本語学習者の読解過程】

日本語学習前に漢字の知識を持っていなかった英語話者を中心とする中級レベルの日本語学習者に読解過程の調査を行った。新聞や新書などの文章を読んでもらった結果、たとえば(7)のようなことが明らかになった。

- (7) 主語の省略がある文については、「「は」や「が」の前のもをすべて主語だと判断する」といった学習者独自のストラテジーによって主語を推測する。その結果、誤った推測をすることがある。
- (8) では、「ちょうどいい」の主語は「アルバイト」である。しかし、「は」の前にある「現場を見る」を主語だと推測し、「現場を見ることはちょうどいい」と解釈する学習者が多い。「は」の前にある「に」は無視しているということである。
- (8) 卒業生からの「いい人いませんか」の一声で、学生にアルバイトを紹介してしまう。インターンシップのようでもあり、現場をみるにはちょうどいいからだ。

【上級レベルの日本語学習者の読解過程】

日本語学習前に漢字の知識を持っていた中国語話者を中心とする上級レベルの日本語学習者に読解過程の調査を行った。日本の大学院に在学する日本語能力試験1級合格者に、自分の専門分野の学術論文を読んでもらった結果、たとえば(9)のようなことが明らかになった。

- (9) 辞書などは見ずに、さまざまなストラテジーを使って解釈し、その解釈に自信を持っている学習者が多い。特に「自分が持っている既有知識に合うように解釈する」というストラテジーによって誤った解釈をすることがかなりある。
- (10) は満州国についての文章であるが、「満洲国は傀儡国家だった」という既有知識によって、「住民を登録し、「国民」として把握する制度を持たない」という逆の解釈をする学習者がいる。
- (10) けだし、およそいかなる国家でも、領域内にある住民を登録し、「国民」として把握する制度を持たないものはないのである。

詳細に調査すると、上級学習者でも明らかに誤った解釈をしている例が見つかる。研究者も日本語教師も意外に気づいていない点だと考えられる。